

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人社団 博文会		
事業所名	グループホーム永の郷		
所在地	熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市南部の緑川を渡り、のどかな田園がひろがる澄んだ空気の中にある平家造りの建物である。一周約150メートルのグラウンドが併設しており、朝は地域のグラウンドゴルフ場、日中はご利用者の散歩コース、夕には子どもたちの歓声が聞こえてくる。家庭菜園もあり、季節の野菜を職員が中心ではあるが栽培している。また、理念の中でも本当の家族としてのケアを目指すことが謳われている。職員はそれを暗唱しているだけではなく、なにが尊厳なのかを考えながら日夜ケアに邁進している。職員の平均勤務年数も比較的長く、ご家族の安心感にもつながっていると思う。職員の労働環境としての特色はほぼ残業ないということと、子育てママにも優しい職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑川河川の近くにお宮や田畑など昔ながらの住まいの雰囲気が残る地に、開設から15年を迎えようとする『グループホーム永の郷』は、「入居者と共に過ごしながら地域の中で、自立した幸せな日常生活を送れるよう見守り、支えていく」ことを理念に掲げ、全職員で笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。大切な家族との関係が途切れず、ホームに足を運んでもらう機会も兼ね2か月に1回開催される家族会は継続され、生き生きと働く職員の姿も家族からの信頼をより強固なものにしている。「入居者それぞれができることを、自分でやってもらうことが人格の尊重の基本」とし、職員は耳を傾けその方を知ることから始めている。「ここは先輩がいっぱい！ものすごく働きやすい！」異業種から介護の世界に飛び込んだ男性職員の言葉は、勤務年数の長い職員の多さややりがいのある職場であるということが伝わってくる。訪問者にも居心地よく、面会時は家族もきつと安心して帰路につかれるのであろうと察することができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活をおくる」ための文言が理念の中に謳われており、毎朝復唱することで、理念の共有を図りながら実践につなげている。	入居者がホームの一員として一人ひとりが出来ることで運営に関わり、意欲と自信を失うことなく生活してことを理念の柱としている。管理者は先ず、職員自身が働きやすく風通しのよい環境を確立することが、ひいては入居者への安定した支援に繋がるとし、理念に向き合う時間を大切にしている。	開所以来理念を見直す機会を幾度か設けたものの、全員の総意として現行の理念を大事に継続することで一致している。地域への啓発も行われているが、年度初めの運営推進会議などで口頭にて発信することで更に認知度も高まるものと考ええる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の回覧、併設グラウンドの地域への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催、地域運営推進会議メンバー等地域に根ざしている。	田畑や川沿いの緑に囲まれた自然豊かなホームで、入居者は四季の変化を肌で感じながら、職員や面会に訪れた家族と共に地域を散歩し、人々と交流しながら生活している。広大な敷地には入り口に地域の防火水槽を有し、グランドゴルフやどんどこや、道路工事中の車両の駐車場及び資材置き場として大いに活用されている。日々の食事には地元の新鮮な食材を取り入れ、入居者の楽しみとなっている。	今後、小・中学生のナイストライなどの受け入れ先として新たな地域貢献にも取り組んで頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーに自治会長、民生委員、老人会長、グラウンドゴルフ協会、保育園園長等の方々がいらっしゃるので、皆で共有するような取り組みはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は6回実施しているが上記のメンバー以外に包括、有識者の方々や常に議題についての検討をしている。	自治会長や民生委員、地元の保育園関係者など普段から交流や協力関係にあるメンバーにより2か月ごとに開催されている。自然災害後には独居者の被害確認などの報告も行われ、地域に根付いた内容の会議となっている。また、参加メンバーがそれぞれの立場で意見や提案を出し、会議の内容は職員へも周知され、地域と一体となった話し合いであることが聞き取りからも窺われた。	以前に比べると家族の参加が少なくなったとのことであり、今後も引き続き参加の呼びかけを期待したい。あわせて会議で食事や入浴、排泄など日々の生活支援についても報告することで、入居者の様子をよりリアルに発信できるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センター中心の地域ネットワークには常に出席し、協力関係を築いている。	運営推進会議には包括職員が参加しており、ホームの現状を伝えながら適切な意見やアドバイスを受けている。管理者は書類提出や相談事項があれば、行政や包括に出向き、指導を受け運営に活かしている。また、包括を中心とする地域ネットワークを通じ、地域福祉への協力体制を築いている。	先の熊本地震を受け、行政より災害訓練の必要性を受けたところであるが、ホーム単体での難しさを感じており、今後地域と一体となって実現されるよう取り組みが待たれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「NO虐待・身体拘束」をモットーに職員全員意識している。研修、勉強会などで、日常的に全員が共有できるような取り組みをしている。	職員は内外の研修や、テレビなどで実際におこった拘束や虐待の事例をもとに検討する時間を持ち、それらを行わないことを前提としたケアに取り組んでいる。帰宅願望のある入居者の繰り返しの言葉にも耳を傾け、否定することなく対応し、威圧的な表現や言葉による封じ込めにも注意を払っている。居室にてセンサーマットを使う方も現在おられないようである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では、県のライブラリーの資料での勉強会や弁護士の講演への参加、ニュースなどを朝礼でも取り上げ常に意識を持つような取り組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中にも直系の家族がいない方もおられるので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にお会いして、こと細かい説明で、できるだけご家族の不安、疑問にお答えしているつもりである。契約時もかなりの時間を要している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会開催の場で、できるだけオープンに意見交換ができるような雰囲気作りにつとめている。遠方のご家族もこの会には出席していただけます。	運営推進会議と家族会を年6回交互に開催することで、家族の意見を会議に反映し、会議内容を家族に報告する仕組みが開所当時から確立している。遠方の家族もこの機会を利用し、面会を兼ねてホームを訪れ、入居者の様子を確認しながら、直接意見や要望を提案している。入居者の意見は日々の会話から引き出し、最も多い食事への要望には、調理担当者と検討し、入居者の意向に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内勉強会の場では必ず今の職場の現状を皆に一言づつ発言してもらうようにはしているが、なかなか本音が言えない場合もある。	法人全体で働きやすい職場環境をつくる努力をしており、運営者も毎週ホームに足を運んでは入居者や職員と会話したり、管理者と日々やり取りしながら運営に携わっている。職員は普段から自由に意見を出し合い、全体会議で検討しながら入居者への支援の充実や、職員の質の向上に繋がるよう取り組んでいる。また、夜勤専任の職員と情報を共有し、夜間の負担を軽減するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も週一回のペースで事業所に来て、職員とのコミュニケーションを図り、改善に努めている。また、社会保険労務士も月一の間隔で来て、職場環境・条件についての話し合いがなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には、特に積極的に参加しているし、講演会にも必ず出席するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会には常に出席している。情報のアンテナは張ってはいるが、満足はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前にかかなりの時間を要して、話しを聴くように努めている。さらに契約時にもあらためて話しを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現実的には入所されてからの最初の週はかなり緊張感をもって細かい観察につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をしっかり理解体感してもらっているので、家族と同様の意識で生活できていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、いつでも気軽にご家族にきていただき、職員がご家族のお尋ねにだれでも回答できるようにしているつもりではある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の供養や墓参また年の節目時はできる限りご家族や馴染みの方々と時間を共有していただきたいと思っているが、年々少なくなってきている。	家族会を通じ面会の機会を作り、入居者が家族と過ごす時間を大切にしている。正月を祝うための帰宅や法事、墓参への参列など家族の協力も得られている。入居者の中には梅干しや干し柿など保存食作りを得意とする方もおられ、慣れ親しんだ手仕事に喜んで参加されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回程度皆様で外出したり、日課の中にもリハビリ体操、今月の歌を3曲程度歌ったりして一緒に暮らす連帯感を感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前のご相談にも気軽に応じ、転居先にも惜しまず情報提供を協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今やりたい希望を叶えられるように、迅速に対応している。例えば、買い物、美容院、帰宅等もちろん帰宅時にはご家族と調整をはかっている。	職員は入居者がホームでどう暮らしたいか、何がしたいか、何を食べたいかなど分かりやすい表現で言葉を引き出しながら、思いを確認している。表現困難な方には家族からの情報や日頃の表情・反応を見ながら本人の思いを掘り下げながらプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話しは尊重しつつも、本人とのコミュニケーションや行動の中から今の生活をより本人の意向に近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の生活動向の観察に主眼にして、起床時のバイタルチェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから現状把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も皆様の状況を細かく把握できつつあり、昨年に比べよい介護計画ができています。	本人・家族の意向を最優先にしながら職員の声を反映したプランを立案している。ホームの指針でもある「入居者のできる力」を引き出し、継続する内容が個々のプランに活かされ、職員は見守りながら支援に努めている。定期的な評価と見直しが行われ、計画作成担当者は家族会を利用し、意見や要望を更に尋ねながら、プランを分かりやすく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が真ん中のプラン作りを皆で考えているまた、記録する際、できる限りネガティブな表現にならないような言い回し方を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様には、いかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいるのでかなりの部分既存のサービスにとられないケアを実践していると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流を上手く活用しながら皆様方の豊かな暮らしを楽しんでいただける実践につなげたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切に、家族、職員連携しての通院支援、協力医の往診を仰ぎながら、迅速に対応している。	家族の希望するかかりつけ医をホームで受診対応しており、結果や健康状態については電話や訪問時などに伝え共有を図っている。職員は起床時のバイタルチェックや食事・排泄・表情など日頃の関わりの中で、異常の早期発見に努めている。また、月1回の体重測定も重要視しており、ホームや受診先の医療機関で計測を行っている。口腔ケアについては、訪問歯科と連携し、家族の理解のもと歯科医や衛生士の定期的な訪問診療や食後の歯磨き、義歯の洗浄などに努めている。	入居者の殆どが、義歯の作り替えができないことから、職員は歯科医と連携しながら、毎食後の歯磨きなど口腔ケアに努めている。継続した取り組みに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に診てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係の方とは密に連絡はとっている。職員も頻回に交替で面会し、状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、制度としてターミナルケアは難しい。日常での医療行為が必要になられる直前までは、ケアをさせていただくことをご家族には理解していただいていると思っている	ターミナルケアについては、現段階では行えない状況であり、家庭的な雰囲気の中でホームにできるギリギリまで支援することとしている。応急処置については、全職員が学んでいる。管理者は家族の思いは常に受け止め、望まれる最終となるよう、必要な相談に応じている。	今後ともご縁のあった入居者・家族に、日頃からホームにできる最良の支援を継続いただきたい。また、重度化・終末期支援への取り組みは現在行われていないが、救急対応に関する研修会など、職員の意見や要望を確認し取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の応急処置は皆学習できている。しかし、急変時は管理者が連絡を受け、マニュアルに沿って救急搬送している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議等で災害時の緊急連絡網の作成はしてある。熊本地震以来意識は高い	年2回火災訓練の実施や、災害時の緊急連絡網の作成を行っている。熊本地震ではホームに大きな被害はなかったものの、自然災害の脅威を目の当たりにし、災害対策への意識が高まっている。備蓄として飲料水を中心に、ホーム車両には災害キットを積んでいる。また、震災後はタンスを低くするなど、改善している。運営推進会議の中でも、震災の復興状況や災害対策について意見交換がなされている。	今後は運営推進会議や家族会の中で災害訓練を実施することも有効かと思われる。また、火災は火を出さないことが一番であり、台所やホーム周辺の確認、居室コンセントの埃など、安全チェックに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とは、個々のことを知りたいと思うことから始まるのではないかと。また、自分ですることをしていただくことが人格尊重の基本だと考えている。	できる事、できない事を見極め、可能な限り自分ですてもらうのが尊厳の基本であることを、管理者は職員へ伝え、全職員が共有し支援にあたっている。呼称は苗字にさん付けとし、同性介助については、その時の希望や状況で対応している。職員のチームワークや生き生きと業務にあたる姿も、入居者に活気と笑顔を引き出しており、高齢者の大切な一日を支えている。職員の守秘義務については、入職時や業務の中で周知徹底が図られている。	玄関に置かれた面会簿については、個人情報の点から記入方法の検討が望まれる。また、居室へ入る際は、在室の有無に関わらず、その方の部屋としてノックの徹底が必要と思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にすること、共同生活を楽しむことは相反する場面もあるが、業務優先にならないように、いつも葛藤しながら取組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪きり化粧、外出時の身だしなみ等いろいろな場面でしえんしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様が個人でできる範囲での準備、片付けを一緒にしている。また、個々に応じた、食事形態を提供している。特に誕生日等の記念日にはそれぞれの嗜好にあった食事を提供している。	献立は給食委員会が中心になり、これまでの物を参考にしながら、豪華なものより美味しく食べてもらえる食事を心掛けている。ヨモギやのびる・つくしなどの野草や山菜を取り入れた料理など季節を感じる一品の提供もホームの特徴である。また、誕生日には刺身や鯛のお頭を添えるなど、入居者の希望も聞きながら祝っている。入居者が直接日々の調理に関わる機会は殆どないが、料理本を開いてもらったり、下膳などできることで食への関わりを持ってもらっている。	牛乳やヨーグルト、卵などは地域の専門店からの配達としており、拘った食への取り組みについて家族へも伝えることで、更に安心に繋がると思われる。また、検食は入居者の思いを共有するものでもあり、味や量に加え、入居者の発した言葉など、今後に繋がるコメントを残すことも有効かと思われる。取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の準備は、ご利用者も個々の状態に応じた食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解している。訪問歯科とも連携し、ご家族のご理解のもと定期的な訪問診療がなされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンは把握できている。数名の方は声掛けし時間毎のトイレ誘導を行う等の支援を実行している。日中は全員トイレで排泄している。	把握し個々の排泄パターンを活用し、自立の方の継続や声掛け・誘導を行っている。昼・夜を通して布パンツの方やリハビリパンツ、尿取りの併用、夜間のみポータブルトイレなど、排泄用品も様々であり、その時々で適切なものを検討している。トイレ内は臭気などなく使用できるよう、掃除が徹底されている。車いすを自走しトイレを使用される方に、さりげないサポートで誘導する職員の姿も見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンはつかめているので、個々に応じた取り組みがほぼできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回で入浴していただいている。曜日に応じてチーム分けしている。	入浴は清潔保持に加え、入居者にゆっくりとした時間となるよう、湯温など個々に応じて支援している。入居者と職員の信頼関係から拒否される方もなく、基本的に週3回の支援が行われている。菖蒲や柚子湯支援は、季節を感じる日本ならではの取り組みであり、毎年実施している。浴室内は明るく清潔に管理しており、気持ちの良い入浴に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時刻を設定していないので、その方ひとりひとりのサイクルに合うようにしているため、皆様方よく眠られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者の命に直結する問題なので職員ひとりひとり自覚している。係りつけ医師とも相談し、薬は出来るだけ減らす方向で対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活にリズムをつける意味で「体操」「今月の歌」を皆様と決めている。また、併設のグラウンドでは、日常的な散歩、季節の花見、柿、梅の収穫、菜園での野菜栽培などを楽しみの一つにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえるように、最低月一程度はドライブ、外出をしている。ご家族には時折お願いしている。	暑さ、寒さの時期は外出を控えがちであるが、天候が良ければ身体面に配慮しながら、努めて外出の機会をもっている。月一回は、ドライブ外出を計画しており、季節の花見(桜・紫陽花など)や初詣、外食、物産館で買い物やおやつ(アイス他)を楽しむなど、地域資源も活用しながら取り組んでいる。ホームは広い敷地を有しており、散歩や散策、グラウンドで開催されるイベントを見学するなど、身近な外出を支援している。外出を含めたホーム内の活動の様子は、個別の「永の郷だより」で写真を載せ報告している。	ホームでは面会にも繋がる取り組みとして、2か月ごとの家族会が開催されている。家族便りの中に外出予定を記すことも、参加・協力を繋がるのが期待される。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方が極めて少数であるが、買い物希望あられるかたは、まずご家族に相談している。事業所としては、金銭管理を極力減らす方向にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかるともまれでほぼ皆様難聴である。手紙を出したりする方もほぼおいでにならない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創設当時のコンセプトとはいろいろ面、ずれてきているので、そぐわない空間もあったが内装の改修工事や職員の創意工夫等で今の生活がしやすい空間作りを目指して日夜努力している。	経年や熊本地震の被害などにより損傷が発生しているが、その時々で必要な改修を行い、入居者が安全に過ごせる環境が作られている。ホーム内には入居者と一緒につくった壁面や敷地内に咲いた草花を飾り、季節感を感じてもらえるようにしている。また、リビングには昨今では珍しくなった日めくりカレンダーが下げられ、入居者にとっては懐かしいものであり、管理者は毎年入手に努めている。テーブルは入居者がゆっくり過ごせるよう、2名用を多く用意しており、配席も相性なども考慮し検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が楽しく生活できるように居場所やテーブルを工夫して、居ていた出していると思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意思を尊重して、配置していただいているが、レイアウトでご本人にリスクが考えられる時には職員がアドバイスする場合がある。	入居時に最低限必要な持ち込み品について、一覧表をもとに説明するとともに、安心される馴染みの品などについても申し添えている。入居年数が長くなられた方においては、当初持参した家具が傷んだり、使用される機会がなくなった場合は、相談のもと安全面からも撤去している。家族の写真や小物など、必要な品に個々まれた居室となっており、家族から届く月刊誌を楽しみにされる方もおられる。また、退所時は私物受け渡しチェック表にて、家族へ確実に持ち込みの返却を行っている。	どの部屋からも緑の樹木が眺められる居室である。お孫さんからイラスト入りのメッセージが貼られた部屋など、家族の思いが伝わってくる。今後も一人ひとりにとって居心地よく過ごせる居室環境に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	数年前リフォームし、以前よりも皆様が安全で安心した生活が送れるようになったのではないかと考えている。		